

# JA今治立花自己改革進捗状況（令和4年7月末現在）のご報告

## 実践・実行方策

部署名	生産部		
目的	今治立花農業の振興に向け「担い手の育成・支援」「農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた生産振興・販売事業改革」に取り組む。		
実践方策	具体的実施事項・実施手順	令和4年度	進捗状況および対応策
今治立花農業の振興に向け担い手等（認定農業者・ベテラン農業者・新規就農者・定年帰農者等）への育成支援に取り組む。	新規就農者の募集広告の掲載	掲載回数 3回/年	随時掲載していきます。
	農地受委託契約相談会の開催	開催回数 2回/年	開催は11月・3月を予定していますが、随時生産課にて受け付けます。
	相続・事業継承相談会の開催	開催回数 2回/年	青壮年部・後継者部会合同研修会にて開催予定します。
	担い手への積極的な農業融資に対応	融資実行件数 10件/年	農機の推進と同時におまかせ資金の紹介、補助事業の活用を行っていきます。
水田フル活用の観点から、引き続き飼料用米の推進に取り組むとともに、麦・大豆等も含めて地域実態に合った品目を選択し、需要に応じた生産に取り組む。地域ブランドの確立と地域農産物の消費拡大に取り組む。	ブランド米（学給米）・新品種（ひめの凜、多収穫米）栽培講習会の開催	開催回数 3回/年	育苗講習会、稲作後期管理講習会はコロナウイルス感染拡大の影響で中止した。ひめの凜については栽培者のみで4回講習会を行う予定。
	学校給食米栽培面積の拡大	栽培面積 35ha	学給米については今治立花独占事業となり今治市と交渉を持ちながら栽培面積の維持に努めます。
	麦・大豆生産拡大に向けた栽培研修会の開催	開催回数 3回/年	需要に応じた品種作付、小麦の更なる有望品種への検討が望まれる中、作付相談は随時個別に行います。
	地産地消の推進による学校給食向け有機野菜の生産者の確保	生産者数 1人	食の安全を第一に考え、有機JAS認証を取得できる生産者を求めていきます。
	学校への食農教育出前講座や体験学習等の実施	実施回数 2回/年	6月17日に立花小の有機栽培についての出前授業に参加、6月20日に田植えを実施しました。
「農業者所得増大」「農業生産拡大」に向けた生産トータルコストの低減を図る。	定期的な市場調査及び現行価格の見直しの実施	実施回数 2回/年	国際情勢による肥料、飼料、資材の高騰に対し国、県、市へ支援を求め、生産コストの引下げに努めます。（8月12日に今治市長に価格高騰対策の陳情）
	棚卸在庫の適正化を図る予約注文書の回収率増加	回収率 80%	水稻・麦・レンコン・土壌改良剤・種子（稲・麦）の予約を取りまとめています。小組合・各部会への依頼を行っていきます

### ②計画との差異および上記以外の課題・対応策について

課題	対応策
新規就農者を受け入れられる農地・指導者の確保が難しい。	高齢に伴う後継者不在の離農者の農地を集積して斡旋する。又、親里就農、定年帰農者を中心に担い手育成に取り組む。
離農と共に宅地の開発が進み農地の減少が進行している。	受託事業を活用し農地の管理維持に努め、担い手を育成し地域の農地と農業を守っていく。農事組合法人たちは受け皿として米麦一貫した受託事業を検討していく。